

3. 完了時制

1.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) トムは私を 2 時間ずっと待っています。

(been / two / for / . / Tom / waiting / me /
has / hours / for)

(2) 昨夜からずっと雨が降っています。

(has / night / raining / . / it / last / since /
been)

(3) 私は 12 年間ずっとここに住んでいます。

(here / years / I / . / twelve / have / living /
lived / been / for /)

[2 語不要]

[解答]

- (1) Tom has been waiting for me for two hours.
- (2) It has been raining since last night.
- (3) I have lived here for twelve years.

Note

3. 完了時制

1. 現在完了進行形

- (1) トムは私を2時間ずっと待っています。

Tom has been waiting for me for two hours.

↑
現在完了進行形
have been ~ing

↑
wait for ~
「~を待つ」

↑
「2時間」

完了時制の進行形には、①現在完了進行形、②過去完了進行形、③未来完了進行形がありますが、まず、現在完了進行形は次のようになります。

現在完了進行形 <have[has] been ~ing>

「~し(続け)ている」「~し(続け)ていた」

過去のあるときから現在まで続いてきた動作・出来事を表す。今後も続くことを暗示する場合もあり、直前に終了したことを表す場合もある。

It has been raining for more than two weeks.

(2週間以上雨が降り続けている。)

I have been waiting to receive this letter for a long time.

(長い間この手紙を受け取ることを私は待っていました。)

(1)の問題は「…私を2時間ずっと待っています」なので、現在完了進行形を使って has been waiting for me for two hours の語順を作りましょう。「とき」にあたる for two hours 「2時間」はやはり文末に置くのがふつうです。

Note

(2) 昨夜からずっと雨が降っています。

It has been raining since last night.

現在完了進行形
have been ~ing

「～から、～以来」

(2)の問題では「…ずっと雨が降っています」なので、現在完了進行形を用いて、It has been raining を作りましょう。

この英文は、直前に雨は降りやんで、しかし道路などは雨で濡れているといった状況を指して「昨夜からずっと雨が降っていました」と訳すこともできます。現在完了進行形は、直前に終了したことを表す場合もあることに注意しましょう。

Note

(3) 私は12年間ずっとここに住んでいます。

I have lived here for twelve years.

↑
現在完了
継続用法

↑
「～の間」

(3)の問題は「12年間ずっとここに住んでいます」となっていますが、「住む」の live は状態を表す動詞ですので、進行形にはできません。したがって、現在完了の継続用法を使って have lived とします。been と living が不要な語です。

日本語では同じ「ずっと～している」でも、動詞の種類によって次のように使い分けることになります。

「ずっと～している」

動作を表す動詞 → 現在完了進行形

状態を表す動詞 → 現在完了・継続用法

2.

次の日本文に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) 彼が起きたとき、彼女はすでに家を出ていた。

(already / . / home / had / he / got / she / left /
up / when)

(2) 彼には以前会ったことがあるので、私は簡単に彼を見つけることができた。

(find / because / had / I / I / him / . / him /
could / before / easily / seen)

(3) 彼が彼女を訪ねたとき、彼女は1週間病気で寝ていました。

(been / week / he / for / . / she / when / a /
had / sick / visited / her)

[解答]

- (1) She had already left home when he got up.
- (2) I could find him easily because I had seen him before.
- (3) She had been sick for a week when he visited her.

Note

2. 過去完了形

(1) 彼が起きたとき、彼女はすでに家を出ていた。

She had already left home when he got up.

「すでに」

過去完了
have+過去分詞

leave home 「家を出る」

「～とき」

get up
「起きる」

現在完了は、過去の出来事や状態が現在に何らかの影響を及ぼしているものでしたが、それがそのまま過去にシフトしたようなものが「過去完了」です。過去完了は主に次のようになります。

過去完了… 〈had+過去分詞〉

ある過去の時点とそれよりも前に起きた
事柄を結びつけて述べる表現。

そして、現在完了と同様に次のような用法があります。

- | |
|--|
| <p>① 完了・結果用法
「～したところだった、～してしまっていた」
過去のある時点までに完了していることや結果を表す。</p> <p>② 経験用法
「～したことがあった」
過去のある時点までに経験していたことを表す。</p> <p>③ 継続用法
「(ずっと)～していた」
過去のある時点までの状態の継続を表す。
主に状態の意味を含む動詞がこの用法になる。
(動作動詞の継続を表すには過去完了進行形を使う。)</p> |
|--|

- ① The plane had already taken off before he got to the airport.
(彼が空港に着く前に、飛行機はもう離陸してしまっていた。)
- ② I hadn't seen a lion before I was ten years old.
(10歳になるまで私はライオンを見たことがなかった。)
- ③ He had stayed in his father's firm till his father died.
(父親が亡くなるまで彼はずっと父親の会社にいた。)

(1)の問題は、「…起きたとき、…すでに家を出ていた」で起きた時点にはすでに家を出ていたことが完了していますので、過去完了を使って、**She had already left home** の語順を作りましょう。

ちなみに、過去完了によく使われる **before** と **ago** の違いは次のようになります。

<p>ago …「今」を基準にして「～前」。過去形とともに用いる。 before …「過去の時点」を基準にして「～前」。過去完了とともに用いる。</p>
--

なお、過去完了には次のような用法も挙げられます。

大過去…ある過去の動作・出来事が他の過去の動作・出来事よりも以前に行われたことを表す。

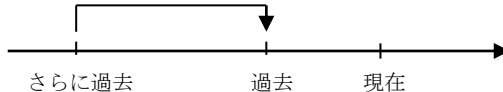
I lost the dictionary that my father had bought for me the day before.

(前日に父が私に買ってくれたその辞書を私は失くした。)

しかし、この大過去という用法は過去完了の前述の①～③の用法の別の面を述べただけで、もともとの過去完了の意味を改めて述べたものではないかと考えられます。つまり、大過去も過去完了のイメージとしては他の用法と同じものだと考えられる、ということです。

[過去完了のイメージ]

ある過去の時点よりも前の過去の出来事や状態が、その過去の時点に何らかの影響を及ぼしている。



さらに、この大過去は、その動作・出来事の順序をはっきりさせる必要があるとき以外は使う必要はありません。つまり、次のようになります。

- ① 出来事が起きた順に並べられている場合は、過去形で並べればよい。
- ② after, before などの接続詞があり、前後関係が明白な場合は過去形が使われることが多い。

① I woke up at six, ate breakfast, and went to school.

(私は6時に起きて、朝食を食べ、学校へ行った。)

② After I took a bath, I went to bed.

(お風呂に入ってから私は寝た。)

なお、過去完了の次のような表現にも注意が必要です。

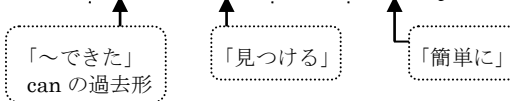
expect, hope, intend, think, want, mean などの過去完了は、実現しなかった期待・願望を表す。

I had intended to finish the work.
(私はその仕事を終えるつもりだった(が、できなかった。))

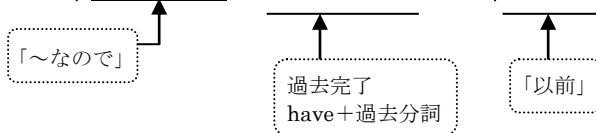
Note

(2) 彼には以前会ったことがあるので、私は簡単に彼を見つけることができた。

I / could find / him / easily



/ because I had seen him / before .



(2)の問題は「…以前会ったことがある」となっていて、「…見つけることができた」時点よりも前の経験を表していますので、過去完了の経験用法を使って、I had seen him before を because の後に続けます。

Note

(3) 彼が彼女を訪ねたとき、彼女は1週間病気で寝ていました。

She had been sick for a week

過去完了
have+過去分詞

「1週間」

when he visited her.

「～とき」

「訪ねた」

(3)の問題では「…彼女を訪ねた」時点では「彼女は1週間病気で寝ていました」となっていて、過去の訪ねた時点の1週間前からずっと寝ていた継続の意味を表していますので、過去完了の継続用法を使って、**She had been sick for a week** の語順を作ることになります。

3.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) 明日までには私はその仕事を終えてしまっているでしょう。

(have / work / will / the / tomorrow / . / I /
by / finished)

(2) 来週行くなら、私たちは6回京都へいったことになるでしょう。

(have / we / to / we / times / week / been /
will / Kyoto / there / six / go / . / if / next)

(3) 次の11月で私たちはここに12年間住んでいることになるでしょう。

(have / November / here / twelve / lived /
they / next / . / will / years / for)

[解答]

- (1) I will have finished the work by tomorrow.
- (2) We will have been to Kyoto six times
if we go there next week.
- (3) They will have lived here
for twelve years next November.

Note

3. 未来完了

- (1) 明日までには私はその仕事を終えてしまっているでしょう。

I will have finished the work by tomorrow.

↑
未来完了
will have + 過去分詞

↑
「明日までに」
by + 期限「～までに」

未来完了は主に次のようになります。

未来完了… 〈will have + 過去分詞〉
ある未来の時点までの動作・状態の完了・結果、
経験、継続を述べる表現。

そして、現在完了や過去完了と同じように次のような用法があります。

- ① 完了・結果用法
「～しているだろう、～してしまっているだろう」
未来のある時点までに完了していることや結果を表す。
- ② 経験用法
「～したことになるだろう」
未来のある時点までに経験していることを表す。
- ③ 継続用法
「(ずっと) ～していることになるだろう」
未来のある時点までの状態の継続を表す。

- ① The lake will have frozen by tomorrow morning.
(明日の朝までには湖は凍っているだろう。)
- ② I'll have been to Kyoto five times if I go there again.
(今度京都に行ったら、5回行ったことになるだろう。)
- ③ By next Friday, he will have lived here for three years.
(次の金曜日で彼はここに3年間住んでいることになるだろう。)

(1)の問題は「明日までには…終えてしまっているでしょう」となっていますので、未来のある時点までに完了していることを表す未来完了の完了・結果用法を使って **will have finished the work** の語順を作りましょう。

ただし、未来完了は助動詞・動詞が3つ並ぶ少し重い表現なので、くだけた言い方ではほとんど未来時制や現在完了で代用します。あまり使われることが多くない表現で、特に、経験を表す用法は非常にまれにしか使われません。

Note

(2) 来週行くなら、私たちは6回京都へいったことになるでしょう。

We will have been to Kyoto six times

未来完了
will have+過去分詞

have been to ~
「～に行ったことがある」

「6回」

if we go there next week.

「もし～なら」

「そこへ行く」

「来週」

(2)は未来完了の経験用法を使って will have been to 語順にします。

Note

(3) 次の11月で私たちはここに12年間住んでいることになるでしょう。

They will have lived here for twelve years

未来完了 will have+過去分詞

「12年間」

next November.

「次の11月」

(3)の英文は未来完了の継続用法で will have lived を作りましょう。

4.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) 彼が訪ねたとき、エリースは料理をしていた。

(had / cooking / . / visited / when / Elyse /
her / been / he)

(2) 彼女はそのときまでずっとテレビを見ていた。

(had / . / watching / till / she / then / TV /
been)

(3) 彼が戻って来るときまでに、あなたは2時間以上待っていることになるでしょう。

(will / for / than / been / hours / time / you /
waiting / . / have / more / the / back / two /
he / by / comes)

[解答]

- (1) Elyse had been cooking when he visited her.
- (2) She had been watching TV till then.
- (3) You will have been waiting for more than two hours by the time he comes back.

Note

4. 過去完了進行形・未来完了進行形

- (1) 彼が訪ねたとき、エリースは料理をしていた。

Elyse had been cooking when he visited her.

過去完了進行形
had been ~ing

「～とき」

過去完了の進行形は次のようになります。

過去完了進行形

〈had been ~ing〉「～していた」「～し続けていた」
ある動作や出来事が過去のある時点まで続いていたことを表す。

He rose from the sofa where he had been sitting.

(彼は(それまで)座っていたソファから立ち上がった。)

(1)の問題では「…訪ねたとき、…料理をしていた」なので、過去完了進行形を使って **had been cooking** としましょう。

Note

(2) 彼女はそのときまでずっとテレビを見ていた。

She had been watching TV till then.

過去完了進行形
had been ~ing

「そのときまで」

(2)の問題では「…ずっとテレビを見ていた」なので、過去完了進行形を使って **had been watching TV** の語順を作ります。

Note

(3) 彼が戻って来るときまでに、あなたは2時間以上待っていることになるでしょう。

You will have been waiting for more than

未来完了進行形
will have been ~ing

「~以上」

two hours by the time he comes back.

「~ときまでに」

未来完了進行形は次のようになります。

未来完了進行形

〈will have been ~ing〉「～し(続け)たことなるだろう」
未来のある時点までの動作・出来事の継続を表す。

He will have been studying English for five years
by next March.

(今度の3月で彼は5年間英語を勉強し続けたことになるだろう。)

しかしながら、未来完了進行形は形が重いのとあまりそうした状況は少ないために、実際に用いられることは少ないようです。

(3)の問題では未来の時点の「彼が戻って来るときまでに」「…待っていることになるでしょう」なので、未来完了進行形を使って **will have been waiting for** の語順を作ります。

by the time は後ろにある主語+動詞とつながって「～ときまでに」の意味になります。

5.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) 彼は忙しいと私は思った。

(he / thought / busy / . / be / I / that)

[.....の語は適する形に]

(2) 彼は忙しかったと私は思った。

(that / had / . / busy / was / thought / been /

I / he)

[1語不要]

(3) 音よりも光が速く進むことを彼は学んだ。

(sound / faster / learned / . / travel / he /

than / light)

[.....の語は適する形に]

[解答]

- (1) I thought that he was busy.
- (2) I thought that he had been busy.
- (3) He learned light travels faster than sound.

Note

5. 時制の一致

(1) 彼は忙しいと私は思った。

I thought that he was busy.

「思った」
think の過去形

接続詞 that

時制の一致

「時制の一致」とは、「主節(文の中心となる主語と動詞)が過去形のとときは従属節(文の一部となる主語と動詞)も過去形になる」ということだと中学校では通常、説明します。

時制の一致 「主節が過去形のとときは従属節も過去形になる」

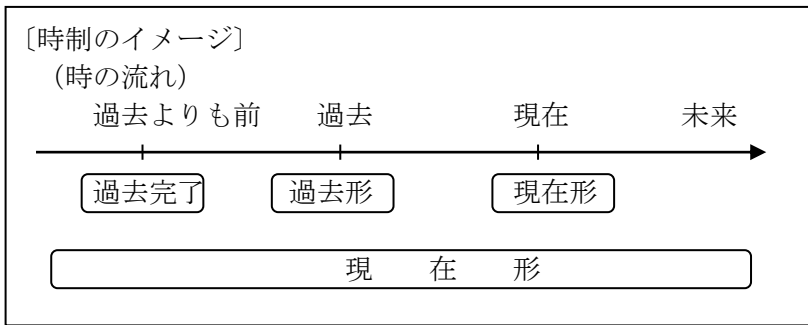
ですが、実はこれは表面的な現象を述べているだけで、本質的な内容は説明していません。

英語の時制に関する内容で重要な要点は、次のようになります。

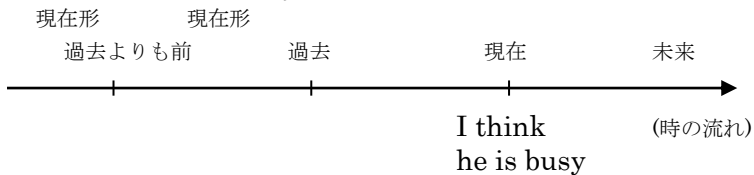
主節が過去形で従属節が過去形なら、それは同じ過去の時点のことがらを表している。

主節が過去形で従属節が過去完了なら、従属節は主節の表す時よりも前のことがらを表す。

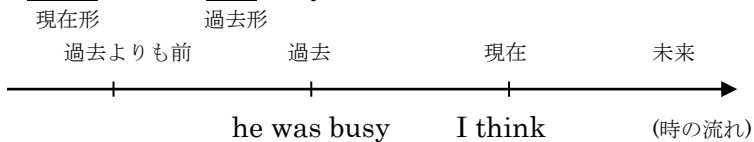
つまり、英語では、「過去のことは過去形で述べて、その過去よりも前のことは過去完了で表す」ということになるのです。



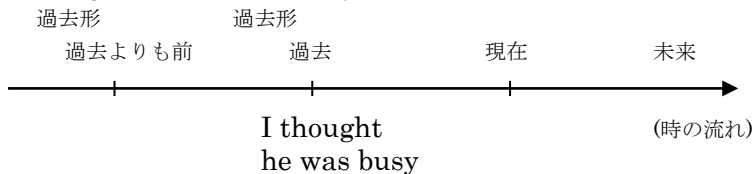
① I think that he is busy. (彼は忙しいと私は思う。)



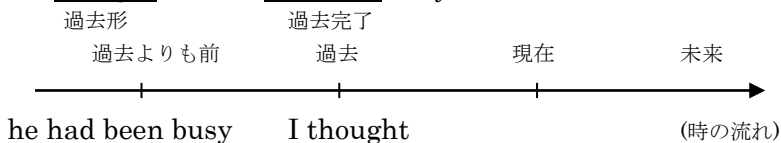
② I think that he was busy. (彼は忙しかったと私は思う。)



③ I thought that he was busy. (彼は忙しいと私は思った。)



④ I thought that he had been busy. (彼は忙しかったと私は思った。)



上に掲げた図をもとに説明しますと、①では私が「思う」のも彼が「忙しい」のも現在です。②では私が「思う」のは現在ですが、彼が「忙しかった」のは過去です。ここまでは問題ないでしょう。

③では私が「思った」のは過去ですが、彼が「忙しい」のも過去なのです。日本語では「忙しい」となりますが、英語は **was** となっています。ここが「英語は過去のことは過去形で述べる」ということなのです。

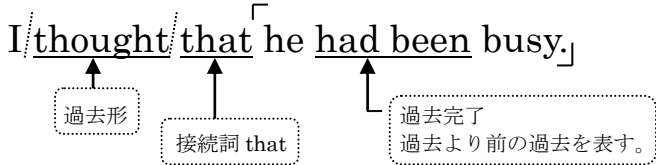
さらに、④では私が「思った」のは過去ですが、彼が「忙しかった」のは、「思った」時点の過去よりもっと前の過去のことです。「過去よりも前のことは過去完了で表す」とはこういうことです。

(1)の問題では「…忙しいと…思った」となっていますが、「忙しい」ととらわれて **is busy** としてはいけません。この場合、忙しいのは今現在ではなく過去の時点のことですので、**was busy** にしないといけないのです。**be** を **was** に変えてください。

これを「時制の一致」と呼んでいるわけですが、なぜそうなるのかは以上の通りで、こうした本質的なところを理解して覚えておくことが必要だと思います。

Note

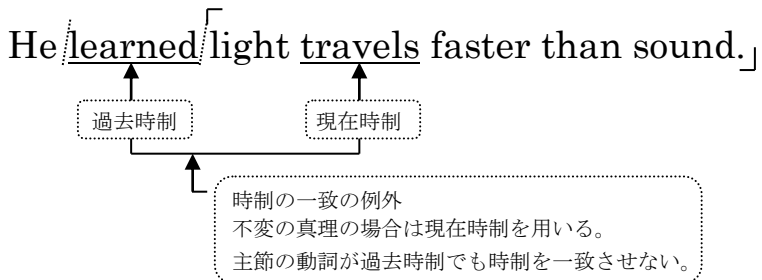
(2) 彼は忙しかったと私は思った。



(2)の問題では「…忙しかったと…思った」となっていますが、「忙しかった」を **was busy** で表してはいけません。この場合、私が「思った」過去の時点よりもっと前に「彼は忙しかった」という意味ですから、過去よりも前の過去は過去完了で表すこととなりますので、**had been busy** としないとイケないのです。 **was** が不要な語です。

Note

(3) 音よりも光が速く進むことを彼は学んだ。



基本的な時制の考え方は上に述べたとおりですが、これに当てはまらないとされるものが「時制の一致の例外」として次のようになっています。

時制の一致の例外

従属節が	① 一般的真理	…現在形
	② 歴史上の事実	…過去形
	③ 現在の習慣的動作	…現在形
	④ 仮定法	…そのまま

つまり、主節の動詞が過去形でも、「太陽は東から昇る」などの①一般的真理や「毎週日曜日にはテニスをします」といった②現在の習慣的動作が従属節になっている場合は、動詞は現在形にする、ということです。

しかし、これは「現在形」が「単に現在のことに限らず、過去や未来においてもほぼ変わらないと思われる、または主語がそう思っていることがらを表す」と考えると、従属節に現在形を使うことは自明の理であって、何も例外とする必要があるものではないようにも思われます。

(3)の英文では、主節の動詞は「学んだ」で過去形の **learned** を使いますが、従属節は「音より光が速く進む」といういわゆる一般的真理を述べていますので、現在形を使うことになります。

ただし、従属節の主語 **light** が 3 人称単数なので、語尾に **s** を付けて **travels** としないとはいけません。3 単現の **s(es)** は中 1 の 2 学期に出てくるところですが、こうした高校内容のところでも出てきます。うっかり、ミスをしないように注意しましょう。

次の日本文に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(4) 第二次世界大戦は 1945 年に終わったと私は教えられた。

(World War II / . / had / was / in / taught /
ended / I / 1945)

[1 語不要]

(5) 十分お金を持っているならその車を買うのにと彼は言った。

(would / car / said / the / money / he / he /
he / buy / . / had / enough / if)

[He said he で文を始める]

[解答]

(4) I was taught World War II ended in 1945.

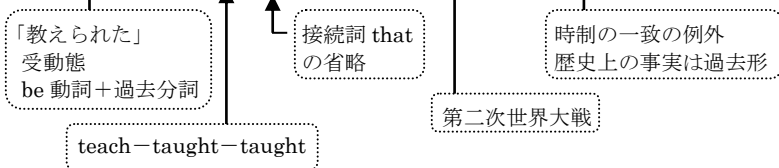
(5) He said he would buy the car

if he had enough money.

Note

(4) 第二次世界大戦は 1945 年に終わったと私は教えられた。

I / was taught World War II ended in 1945.



「歴史上の事実」も時制の一致の例外の一つとして挙げられます。歴史上の事実は、周知の事実としていつ起こったかが明確ですので、わざわざ過去完了を使う必要は通常ないところから、過去形にするのではないかと考えられます。そもそも過去よりも前の過去を表す過去完了自体が、ふつう取り立てて必要がなければ過去形で代用されることから、このことは推定できるのではないのでしょうか。

(4)の問題では、「第二次世界大戦は 1945 年に終わった」という歴史上の

事実が従属節になっていますので、主節が「教えられた」で **was taught** になっていても、過去完了にする必要はなく、過去形にすることになります。**had** が不要な語です。

Note

(5) 十分お金を持っているならその車を買うのにと彼は言った。

He said he would buy the car if he had

過去形

接続詞 **that**
の省略

時制の一致の例外
仮定法は時制の一致を受けない

enough money.]

仮定法も時制の一致は受けません。

「仮定法」というのは「14. 仮定法」で説明していますので、詳しくはそちらを先に読んでいただかないと難しいと思いますが、簡単に言うと「現在の事実と反する空想」を述べるのに「仮定法過去」、「過去の事実と反する空想」を述べるのに「仮定法過去完了」を使う表現です。

「時制の一致を受けない」というのは少し語弊がある言い方で、実は「どの時点での事実ではない空想なのか」によって多少違ってきます。

① She talks as if she knew the movie star.

(彼女は、まるでその映画スターを知っているかのように話す。)

例えば、上の①の例文では、**as if**が「まるで～のように」の意味で、そ

の後には「現在の事実と反する内容」なら「動詞の過去形」を使います。なので、実際は現在彼女は映画スターを知らないのに「知っているかのように」なので、過去形 **knew** を使っているのです。過去形ですが、しかし意味はあくまで現在の「知っている」なのです。これが「仮定法過去」です。

② **She talked as if she knew the movie star.**

(彼女は、まるでその映画スターを知っているかのように話した。)

このとき、例文①の主節の動詞 **talks** が例文②のように過去形 **talked** になっても、従属節の **knew** は、今までのように過去完了の形にはなりません。**knew** のままでよい、ということです。これを指して「仮定法は時制の一致を受けない」とされます。

しかし、これは「今現在も、彼女はその映画スターを知らない」という事実が念頭にあるので、「現在の事実と反する内容」は「仮定法過去」で表すことから、**knew** のままでよい、ということです。

③ **She talked as if she had known the movie star.**

(彼女は、まるでその映画スターを知っているかのように話した。)

これがもし「彼女が話した過去の時点でその映画スターを彼女は知らなかった」という事実を念頭に置いて、今現在のことは不明で念頭になく述べるのであれば、例文③のように「過去の事実と反する内容」を表すことになりますので、「仮定法過去完了」を使います。

これは形式上は「時制の一致」になったような形ですが、そうではなくて「仮定法による時制」に従って形を変えたということです。

このように、仮定法の場合は、あくまで「仮定法による時制」にのみ依存すると理解した方がいいでしょう。

(5)の問題では、「彼は言った…」となっていますので、主節は **He said** としますが、与えられている語から仮定法過去の形にして、**he would buy the car if he had enough money** とします。

この(5)の英文では仮定法過去で述べていますので、「今現在もかれは十分なお金を持っていない」という事実が念頭にあることとなります。

一方、「彼が話した過去の時点で、十分なお金を持っていなかった」という事実を念頭に置いて、今現在のことは不明で念頭になく述べるのであれば、次の例文④のように「過去の事実と反する内容」を表すこととなりますので、「仮定法過去完了」を使います。

④ He said he would have bought the car if he had had enough money.

(十分お金を持っているならその車を買うのにと彼はいった。)

